

日向台病院教育計画（2021年）

***日向台病院では、看護部において経験年数別プログラムを実施、また院内教育を定期的に行い、職員の質の向上を行っている。**

1. 看護部教育

看護部現任教育の目的

精神科看護実践の専門性の向上に必要な知識・技術を学び、また豊かな人間性を養い、「患者個々のニーズに応じた、より質の高い看護」が提供できる看護師を育成する

看護部現任教育の目標

1. 個性性を尊重した看護が展開できる
2. 日向台病院の看護師として、社会人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる
3. 組織の中の一員としての立場と役割を認識し、円滑な人間関係がもてる
4. 専門職としての自己研鑽に努め、教育や研究活動に参加する
5. 教育施設としての役割を理解し、後輩・看護学生に適切な指導が出来る

看護部教育計画

対象者	目的	到達目標	研修内容	開催時期	評価の視点
入職時	1) 日向台病院の職員としての意識と自覚を持つことができる	①日向台病院の概要を理解し、早期に職場適応ができる ②精神科看護に必要な基礎的知識や技術を学ぶ	新採用リインテグレーション 新採用看護職員研修		
卒後1年目	2) 知識を学び業務を確実に実施できる 3) 精神科の特徴を理解する 4) 看護実践における管理的側面を理解・実施する	①入院形態、入院支持、行動制限、通信、面会、代理行為、隔離、身体拘束等精神病院における看護が理解できる。 ②精神福祉法によって精神病院の運営が規程されていることを理解できる。 ③精神科の病状の理解、症状の観察、治療の特徴（薬物療法、精神療法、作業療法）について理解できる。 ④日向台病院の医療安全管理体制、医療情報の保護、災害発生時の行動、薬剤管理、物品管理の理解し、業務基準・手順遵守することができる。	医療安全院内研修、感染管理院内研修、薬物療法院内研修、プラティフ研修、急変時の看護の実際、リフレッシュ研修等研修を開催。		*自己学習 *e-ラーニング *講義 *グループワーク *まとめ
2年目	1) 看護実践能力の向上 2) 対人関係能力の向上を目指す 3) チームリーダーとしての役割が理解できる 4) 看護や教育場面に對し研究的視点で取り組む	①精神科疾患の特徴や治療が理解でき、看護実践に活用できる ②薬物の作用を理解したうえでリカを予測して与薬できる ③患者・家族の心理社会的情報を追加情報として収集し把握できる ④受け持ち患者の看護計画を立案・実施できる。 ⑤7F結果を評価し計画を変更できる ⑥カフアルスの場で積極的に発言できる、また事例を通して自分の看護を振り返ることができる ⑦緊急時に異常を発見し、手順を理解し実施できる ⑧優先度を判断し、適切な連絡と報告ができる ①ア・レコードを活用し、対人関係能力の再認識ができる ②自己の傾向に基づき自己理解を深めることができる ①望ましいチームリーダーの在り方について考えることができる ②医師や同僚、その他の職員と協調して仕事ができる ③新人看護師と看護学生に対して指導方法について考えることができる。	4月に学習計画導入し、毎月目標に沿った研修会を開き、2月には、年間をとおしての学びと来年度の課題を発表し、2年目につなげていく。 プロセスレコード検討会を年2実施し、自己理解を深め、患者看護につなげる。 ①リーダーシップについて ②多職種連携について「PSW,作業療法士から講義	①4月 ②4月～2月 ③8月 ④10月 ⑤2月 ①4月 ②5、12月 ①7月 ②9月 ①4月 ②1月	*年間学習計画表 *まとめレポート *研修評価表 *研修後アンケート *プロセスレコード *ケーススタディ
3年目	1) チームリーダーとしての役割を果たすための基礎的な知識を身につけ、実践することができる 2) 教育的な役割を担うための基礎的な知識を身につけることができる	①チームの中で期待されている役割を認識し、リーダーシップが実践できる ②チームメンバーとしての自分の動きを振り返り、チームワークを促進できる ③チームメンバーとしての責任のある行動がとれる ④チームカフアルスを積極的に計画し、運営ができる ①必要な看護技術・知識の習得の為の教育計画を教育担当者とともに立案し実施することができる。 ②年齢や経験の近い先輩の位置にありサポーターとして新入職者が専門職として成長発達できるように教育的・精神的に援助し指導方法を考えることができる ③自己の看護を振り返り、看護観の確立を目指すと共に、指導能力の育成および、指導観を考える機会とすることができる ④精神科看護に必要な知識・技術を、専門的な知識・技術へ発展させる事ができる	①②・リーダーシップ、チームワーク研修 ③まとめ発表会【年間を通しての学びと来年度の課題】 ④チームカンファレンスの計画・運営について研修・ ①・年間学習計画導入 ・自身の学びたい研修 ②・プロセスレコード（教育的場面） ③・ケーススタディ発表会 ・教育方法、指導方法の共有 ④まとめ発表会【年間を通しての学びと来年度の課題】	①②6月 ③2月 ④7月・10月 ①4月、8月 ②11月、12月 ③1月 5月 9月 ④2月	講義 研修評価表 研修後アンケート まとめのレポート 講義 研修評価表 研修後アンケート ケーススタディ発表 まとめのレポート
4・5	指導者層としての自覚を持ち、日々の看護や後輩・学生の指導などにリーダーシップが発揮できる	①精神科看護に必要な専門的知識・技術を身につけ実践することができる ②看護上の問題に関する優先度・緊急性について状況判断が出来る ③看護師として常に問題意識を持ち、問題の解決や業務改善に対し取り組むことができる ④組織の中のチームの役割、看護におけるチームの意義について認識できる ⑤チームリーダーとして責任ある行動がとれる。 ⑥チームカンファレンスを積極的に計画し、運営できる。 ⑦チームの一員として多職種・部門と連携がとれる。 ⑧後輩スタッフ個々の能力に応じた指導・援助ができる（プリセプターの補佐を行う） ⑨リスクのある患者に安全対策をとったり、リスクに気付いた時に業務カンファレンスを開くことができる。 ⑩医療事故発生時、適切な報告や患者家族への対応ができる。 ⑪指導者層としての自覚を持ち、教育担当と共に指導的な役割を担い、新人・後輩指導をする事が出来る。 ⑫新人・後輩指導・関わりを通して、自己の看護を振り返り、看護観の確立を目指すと共に指導能力の育成及び指導観を考える機会を持つことができる。	①～⑫プロジェクト学習 ポートフォリオ ①②③看護研究（5年目） ④～⑦リーダーシップ学習 ⑧⑩⑫プリセプターシップ学習 卒後7～10年目を講師として学習会 ⑪⑫看護とは、精神看護とは何か（講義） ⑫院外研修参加 自己学習（推奨する学習） アサーティブコミュニケーション	病棟単位で実施 自己学習・自己研鑽 5月 ポートフォリオ導入 研修（中途入職者・初心者） 6月 後輩教育・指導観について講義 7月 看護とは、精神看護とは何かについて講義 10月 中間面接（病棟） 11月 進捗確認のためグループワーク研修 2月 最終面接（病棟） 3月 発表会 ※5月・10月の面談には研修担当は入りませんので各病棟の教育担当と科長、対象者の三者で面談。6月・11月の研修担当との面談、グループワークで進捗状況を確認・意見交換、相談できるよう設定。	研修評価表 研修後アンケート *ポートフォリオ *目標管理シート

6・7年目	中堅層としての目的方向性を意識して問題意識を持ち日々の業務にのぞみ上司と協調して問題解決や業務の改善に取り組むことができる。又、指導者層として役割モデルを示すことができ、後輩学生指導にリーダーシップを発揮できる。	①個々の患者の病態生理・心理社会面を踏まえた看護計画を立案できる ②根拠に基づいた看護計画を立案実践・評価できる ③研究的態度で看護実践を行い、看護研究に取り組む ④後輩、学生指導に携わり指導的役割を発揮できる ⑤中堅層として柔軟に行動できるよう院外研修参加を取り入れ自己能力の拡大をはかる ⑥中堅層として役割を認識し主体的に行動できる。 ⑦後輩学生指導を通じて指導力の向上に努め、指導観について考える機会を持ち確立できる。	①②③看護研究 ④⑤⑥⑦プロジェクト学習 ポートフォリオ ⑤院外研修：各自のテーマを決め病棟単位でフィードバックできるような研修への参加 ④実習指導者講習会（対象者） プリセプターのサポート 自己学習（推奨する学習） RCA分析 ナラティブ SWOT など	病棟単位で実施 自己学習・自己研鑽 ポートフォリオの予定 4～5月 ビジョン明確化のための研修 6月 初期面接（病棟） 10月 中間面接（病棟） 2月 最終面接（病棟） ※研修担当は面談に入りませんので各病棟の教育担当と科長、対象者の三者で面談。 主に自主的に計画し取り組む 病棟へ1回はフィードバック 学生指導へ補助的に関わる機会を作る	*ポートフォリオ *目標管理シート
8年目	中堅層としての役割を認識して問題意識をもって日々の業務にのぞみ上司と協調して、問題解決や業務の改善をはかることができる。又、後輩に対して役割モデルを示すことができ、後輩学生指導にリーダーシップを発揮できる。	①個々の患者の病態生理・心理社会面を踏まえた看護計画を立案できる ②根拠に基づいた看護計画を立案実践・評価できる ③研究的態度で看護実践を行い、看護研究に取り組む ④後輩、学生指導に携わり指導的役割を発揮できる ⑤中堅層として柔軟に行動できるよう院外研修参加を取り入れ自己能力の拡大をはかる ⑥中堅として立場、役割を認識し主体的に行動できる。 ⑦後輩学生指導を通じて指導力の向上に努め、指導観について考える機会を持ち確立できる。 ⑧自己のキャリアビジョンについて考えることができる。 ⑨自己決定した内容を、責任を持ち実施できる。	①②③看護研究 ④⑤⑥⑦⑧⑨プロジェクト学習 ポートフォリオ ⑤院外研修参加：各自のテーマを決め病棟単位でフィードバックできるような研修への参加 ④実習指導者講習会（対象者） プリセプターのサポート 自己学習（推奨する学習） 看護倫理 チーム医療（協働・共働） など	病棟単位で実施 自己学習・自己研鑽 ポートフォリオの予定 4～5月 ビジョン明確化のための研修 6月 初期面接（病棟） 10月 中間面接（病棟） 2月 最終面接（病棟） ※研修担当は面談に入りませんので各病棟の教育担当と科長、対象者の三者で面談。 主に自主的に計画し取り組む 病棟へ1回はフィードバック 学生指導へ補助的に関わる機会を作る	*ポートフォリオ *目標管理シート
9年目以上	自己啓発や相互啓発に努め、上司に協力して、社会の変化や医療の進歩に応じた看護が実践できる	①理論的知識と豊富な経験を統合し、患者に合わせて創意工夫をした技術を提供できる ②患者の力や能力を最大限に生かし、社会資源を活用して自立への援助ができる ③回復の見込みのない患者にも安らかな死への援助ができる ④患者の「死」を調整して優先度を考えたケアができる	①院内研修 ②院外研修 ③実習指導者講習会		
主任・副主任	主任（副主任）としての自覚を持ち、看護科長を補佐し、看護部職員および学生の教育ができる	看護部組織の方針を理解し、中間管理者としての認識を持ち、質の高い看護サービスが提供できる集団維持能力（チームワークとコミュニケーション）目的遂行能力（チームのやる気）を高めることができる ①あらゆる場面において人間を尊重した看護サービスが提供できているかを評価し、改善できる ②対象の個別性に合った質の高い看護を実践しているか、また常に問題形成・研究がなされ、看護の質の向上に努めているかを評価し、改善できる ③看護単位における管理・運営が組織的な体制のもとで効率的に行われているかを評価し、改善できる ④部下が個人ならびにチーム（集団）として看護実践能力を高めているかを評価し、改善できる ⑤中間管理者としての役割遂行状況を客観的に評価し、常に自己の成長を図るために課題や目標を明確にする	管理研修 ファーストレベル伝達講習会等 院内管理職研修（年1回） 自己研さん（院外研修等）	9月	
看護科長	病院ならびに看護部の方針に協力して、各看護単位の管理を遂行し、質の高い看護サービスが提供できる。また質の高い看護を提供できる看護師を育てることができる	①患者さまの人権を尊重し、患者様の立場にたった心温かい関わりができる ②生活や活動の援助について必要な知識・技術・態度を習得し、正確かつ安全に実施できる ③看護チームの一員としての立場・役割がわかり、責任を持って業務遂行ができる ④患者さま・家族に対し、円滑な人間関係を持つことができる	管理研修 セカンドレベル等 自己研さん	未定	
看護補助	看護補助として必要な知識・技術を修得し、看護業務が円滑に行われるよう看護師の補助者としての業務が遂行できる	①患者さまの人権を尊重し、患者様の立場にたった心温かい関わりができる ②生活や活動の援助について必要な知識・技術・態度を習得し、正確かつ安全に実施できる ③看護チームの一員としての立場・役割がわかり、責任を持って業務遂行ができる ④患者さま・家族に対し、円滑な人間関係を持つことができる	①食事 ②接遇 ③排泄 ④体位交換・移乗 ⑤環境整備 ⑥清潔	5月 7月 9月 11月 1月 第2木曜日 予定	研修評価表 NA会議報告 各病棟業務評価

2.院内全体教育

目的：全職員を対象とした教育・研修活動を行うことにより日向台病院の理念・目標を実現し、レベルの高い精神医療を提供できる人材を育成する。
目標：全職員が、医療及び精神医療の知識を修得し、共有することができる。

院内教育計画

研修名	目的・目標	内容	開催時期
院長講話	精神科医療の動向と日向台病院の方針を理解し、自らが組織の一員として病院の成長に貢献しようとする自覚をもつことができる。	事業計画報告会	（研修中止。資料配布）
接遇研修	日向台病院職員としての自覚を持ち、洗練された接遇マナーを身につける。	講義で内容未定	未定
医療事故防止	医療安全管理体制について理解する	「医療安全管理体制について」	未定
	精神科で起きやすい虐待について防止する。	「虐待防止について」	7月19日（月）
医療ガスの取り扱い		「アウトレット、酸素ボンベの取り扱い」	
医薬品安全管理	クロザリルの導入に向けて知識を広める	クロザリルについての導入の講義	未定
医療機器安全管理	BLSの流れを学び実践できる、AEDの使用方法を修得する。	講義およびAEDを用いたBLSの実践	未定
精神保健福祉法について	拘束の実際を知る	拘束用具を用いて体験学習する。	未定
	行動制限最小化について考えることができる。	「行動制限最小化に向けて」の講義	
臨床倫理について	臨床倫理について学ぶ	臨床倫理について知ろう	未定
感染対策	感染予防策を知り、実践できる	新型コロナ対応に基づいた職業関連感染対策の考え方	6月資料配布、確認テスト
個人情報保護法	個人情報保護について知り、実践できる		未定

トロミ剤の硬さの基準を学ぼう「嚥下障害改善委員会」	簡単トロミ測定版を使用してに「本接触嚥下リハビリテーション学会の示すトロミの硬さの基準を学ぶことができる。		未定
研究報告会	日々の実践を研究としてまとめるとして業務の振り返りや評価につなげ、また研究成果を実践に生かすことで実践力を高めることができる。常に問題意識を持ち、研究視点から業務を検証することで質の向上につなげていく。	各部門からの研究発表会	2月
伝達講習会	院外の研修・学会での学びを共有し、全体の俊樹や技術の向上につなげる。		2月

2021年6月